

* 関 勝 則 「時代を映した横浜の歌」 探訪。

《9》 舞台は横浜のナイトクラブ「上海帰りのリル」

終戦時に海外に在住していた軍人や一般人は合わせて600万人以上おり、当時の日本の人口の1割近くだったといわれています。その人たちは復員船と呼ばれる艦船で、中国本土、満州、東南アジア、旧ソ連等から帰還しました。

そんな時代を描いた歌の一つが1951(昭和26)年に発売された津村謙の「上海帰りのリル」です。1934(昭和9)年に公開された「フットライト・パレード」という米国ミュージカル映画の主題歌の「上海リル」をディックミネが日本語で歌いました。「上海帰りのリル」は戦争を挟んで7年後、その歌の続編のように生まれました。作詞は東条寿三郎、作曲は渡久地政信。実はリルを歌った曲のシリーズはこれだけで終わらず、翌年に三条美紀が「私がリルよ」、津村謙も「リルを探してくれないか」「心のリルよなぜ遠い」を発売。さらには別の歌手によって「私がリルの妹よ」や「私は銀座のリル」、「霧の港のリル」なども便乗する形で生まれました。もちろんその中で大ヒットしたのは、「上海帰りのリル」でした。

戦前に上海にいて、戦後横浜に帰って来ている女性を探すという設定で「船を見つめていた ハマのキャバレーにいた 風の噂はリル 上海帰りのリル リル〜」という歌になりました。

もともと「リル」は人の名前ではなく、「マイリトルダーリン」を略した呼称でしたが、すでにこの頃は女性の名前のようになっていて、翌年の1952(昭和27)年には映画化された際は、上海帰りのダンサー「竹本リル」がヒロインとして登場、その舞台になったのが元町代官坂のナイトクラブ「クリフサイド」です。1946(昭和21)年に「山手舞踏場」として設立された「クリフサイド」は、「ナイトアンドデイ」「ブルスカイ」と並んで、フルバンド演奏でダンスが踊れる、横浜を代表するナイトクラブでした。

当時、米軍に接收されていた横浜は、ジャズ文化が根付き、この地から日本有数のジャズミュージシャンが続々と誕生、「クリフサイド」は1990年代にナイトクラブとしての実態は失われましたが、現在も2階はレストラン1階の大ホールも音楽イベントやダンスパーティなど多目的イベントホールとして、として営業され、また、テレビや映画のロケ地として古き良き横浜の香りを保ち続けています。



クリフサイド (元町:代官坂)



30年度予算案に対する代表質疑 (1)

新年度予算については本会議での各党代表質問で本格的な審査がスタートします。その後に特別委員会が設置され各局別の予算審査が始まり、総合的な質疑を行う連合審査会まで続きます。連合審査会は、市長が出席して質問者と一問一答形式で行われます。3月20日に私は自民党を代表し質問、以下主な質疑についてご報告いたします。

劇場の整備

質 問 市長は「成熟期にある都市が今後も豊かな人を育むには、文化芸術の力が必要」とし「文化芸術創造都市の実現」を目指し様々な取組を展開してきたがその総括は。

市 長 これまで、現代アートや音楽、ダンスのフェスティバルを開催し、まちづくりや次世代育成に努め身近で文化芸術に触れる環境整備に取り組んだ結果、観光客数や消費額が増加し、横浜の魅力向上や賑わいの創出に寄与してきた。今後は、ソフト、ハード両面から新たなステージに挑む必要があると思う。

質 問 30年度に示された「新たな劇場整備」に向けた予算案は市長の強い思いが込められたものと思うが、市内には県民ホールなど既存の施設に加え民間による音楽ホール整備計画が動き出している。今回の市長が考える劇場のイメージは。

市 長 オペラやバレエ、歌舞伎など本格的な舞台芸術の上演施設を考え、横浜から新たな文化芸術の魅力発信し若手アーティストや子供たちの育成にもつなげたい。そして、県立や民間主体のホールではない、大都市横浜として劇場を整備したい。

商店街の活性化

質 問 30年度予算に計上した「フィールドサーベイ事業」の狙いと実施内容について。

経済局長 商店街からの要望に応え、買い物行動に関するアンケートや通行量調査、コンサルティングを行い、今後の支援策につなげていく。

質 問 「商店街の活性化に関する条例」が制定され3年。商店街活性化へ市長の思いは。

市 長 私も最寄りの野毛商店街を利用しているが店主とのやり取りに温もりを感じている。今後も地域に親しまれる商店街づくりを応援していく。国内外から多数の来客者が訪れる好機も捉え、活性化につなげたい。

海洋都市横浜の取組

質 問 27年度から「海洋都市横浜うみ協議会」を設立し子供たちの教育や産業振興につなげているが、その取組を振り返っての所感は。

市 長 海の魅力を体感するイベント「うみ博」には2万人を超える来場者があり関心の高さを実感した。今年「海と産業革新コンベンション」を開催したところ450を超える企業団体の参加があり、産業振興に向けた手応えも感じている。

質 問 「海洋都市横浜」の今後の展開について。

市 長 子供たちの海洋に関する学習機会を充実、海洋分野の国際会議等を誘致し、市内企業のビジネスチャンスにつなげ「海洋都市」横浜の存在感を高めたい。